

中間株主通信



さくらんぼ



芋煮



山形つや姫

最上川

日本の
特産品

山形県編

詳細は
裏表紙へ！

木徳神糧は、コメビジネスを通して国内のみならず、世界中の消費者にコメ・コメ関連食品の素晴らしさを発信し、健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートします。

企業価値

木徳神糧グループは、次のことに価値をおきます。

- 常にお客さまのニーズに応えます。
- お客さま、お取引先、株主、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーとの信頼関係を大切にします。
- 社業の発展を通じて社会に貢献します。

米穀事業

家庭用・業務用の精米の製造販売、玄米の販売を行い日本の主食であるコメの安定供給に全力を注いでいます。

飼料事業

国内配合飼料メーカー等への槽糠類、輸入牧草などの飼料及び飼料原料の販売を行い、畜産業の発展に貢献します。

鶏卵事業

鶏卵、鶏卵加工品を販売。鮮度管理に万全を期し、農場とパック卵工場を直結させた物流体制をとっています。

食品事業

製菓及び加工食品用米粉、たんぱく質調整米や米糠を原料とする米油など、コメ加工食品の製造・販売を行っています。

Strong Point

鶏卵事業編

健康食に欠かせない鶏卵と鶏肉

良質なたんぱく質を豊富に含む鶏卵や鶏肉は、近年特に健康に気を使う人からのニーズが高まっている食材です。キトクフーズ(株)は、それぞれの味や肉質など特徴を活かしたメニューを外食産業や量販店へ提案しています。また、全国有数の優良農場と契約し、「新鮮」で「安全」、そして「美味しさ」にこだわり続けた商品を提供することを大切にしています。

全国へ鶏卵の相場情報を発信

鶏卵の相場価格は、各地の荷受機関と呼ばれる鶏卵を取り扱う会社を中心に形成されます。

キトクフーズ(株)も、全国の生産量や販売量・在庫量により決定した相場価格を日々新聞やインターネットで発表し、全国への情報発信役を担っています。



売上高 (単位:百万円)

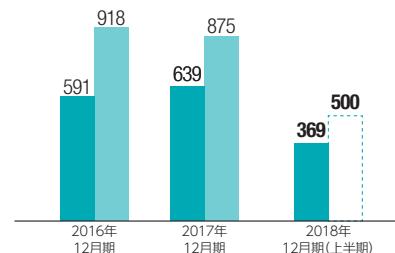
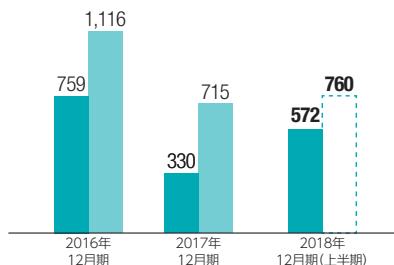
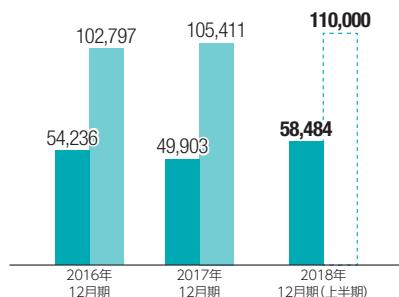
■ 上半期 ■ 通期(予想)

経常利益 (単位:百万円)

■ 上半期 ■ 通期(予想)

親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益 (単位:百万円)

■ 上半期 ■ 通期(予想)



米穀事業



売上高

51,026百万円
(前年同期比19.5%増)

営業利益

803百万円
(前年同期比35.7%増)

- 平成29年産米の取引価格が前年同期を上回る水準で推移したことに加え、ミニマム・アクセス米の取扱数量が大幅に増加し増収
- 業務用向けの低価格米の調達難が継続するなか、平成29年産米の仕入価格上昇に伴う販売価格の改定に注力するとともに、コスト削減に取り組み大幅増益



飼料事業



売上高

3,142百万円
(前年同期比2.8%増)

営業利益

157百万円
(前年同期比14.2%減)

- 飼料原料相場が上昇しているなか、穀類を中心とする配合飼料原料の販売が堅調に推移し増収
- 需給環境の変化により販売競争が激化したことから利益率が低下し減益



鶏卵事業



売上高

2,525百万円
(前年同期比2.5%増)

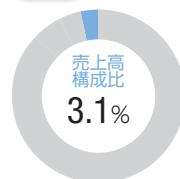
営業利益

13百万円
(前年同期は3百万円の営業損失)

- 鶏卵相場は下落したものの、業務用向けパック卵及び鶏卵加工品の販売数量が増加し増収
- 損益面でも採算向上に努め黒字回復



食品事業



売上高

1,790百万円
(前年同期比6.2%増)

営業損失

47百万円
(前年同期は56百万円の営業損失)

- 加工用うるち米の販売が増加し増収
- 損益面では台湾におけるたんぱく質調整米の製造・販売が大きく遅れたことから赤字で着地

国内における「生産者に近づく体制づくり」と海外における「日本米市場の創造と開拓」の成長戦略を着実に実行していきます。



代表取締役社長 平山 淳

Q 2018年12月期上半期の業績についてお聞かせください。

A 米価が上昇するなか、価格改定への理解が得られ、増収増益となりました。

主力の米穀事業において、平成29年産米の取引価格が前年同期を上回る水準で推移したほか、単価の高い国からのミニマム・アクセス米の輸入取扱量が大幅に拡大したことが増収につながりました。また、飼料事業において、穀類を中心とする配合飼料原料の販売が堅調に推移したこと、鶏卵事業において業務用向けパック卵、鶏卵加工品の販売数量が増加したこと、食品事業において加工用うるち米の販売が前年同期比増加したことなどにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比17.2%増となる584億84百万円となりました。

依然として、中食・外食といった業務用向けを中心に値頃感のある米の調達難が継続していますが、この需給のミスマッチに対する取引先からの

理解が得られ、仕入れ価格の上昇に伴う販売価格の改定を進めることができたほか、コスト削減にも注力したことで、営業利益は前年同期比88.8%増の5億28百万円、経常利益は73.2%増の5億72百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に土地等の売却に伴う特別利益があったため前年同期比42.3%減少し、3億69百万円となりました。

Q 国内市場の動向と消費者ニーズの変化への対応策をお聞かせください。

A 従来の考え方に捉われず、新たなニーズを生み出す取り組みを行っていきます。

国内における米穀の需給環境は、特に家庭用の消費の落ち込みが続いています。しかしながら、全国のコンビニ、スーパーで販売を開始したチャック式スタンドパックの鮮度保持タイプの米(2kg)は販売が伸長しています。これを踏まえ、桶川工

場では鮮度を維持するための窒素ガスの充填および脱酸素剤を封入する全自動ラインの設備投資を実施しました。下半期には、5kgパックのラインも完成させるべく、設備計画を進めています。

一方、これまで継続して右肩上がりでも上昇してきたコンビニのおにぎり向けコメ販売が停滞を見せています。コンビニ店頭で販売が伸びているコーヒーとセットの食べ合わせとして、パン食に流れているとの分析もあり、現在、当社のテストキッチンでパン粉を米粉に替えたコロッケパン、カレーパンといった調理パンの開発・試作を重ねています。近年、小麦アレルギーに悩む方や、グルテンフリーを意識する方が増えている中で、米粉を原料に使用した美味しい調理パンを提供することは、市場ニーズに応える付加価値の高い商品になると考えており、食品メーカーへのレシピ提案を行っています。テストキッチンを本社に移し、随時役員会で試食を行ったり、営業担当と検討ができる体制になったことで、開発の効率化が図れています。また、食べやすく栄養豊富な玄米食専用品種「金のいぶき」の玄米粉を用いた麺等の開発・商品化も進めているほか、朝食や補給食として手軽に食べることのできる機能性食品の分野へコメ由来の原料を使用することも検討しています。消費者のニーズの多様化に対応する取り組みに力を入れながら、従来とは異なる形でのコメの消費量拡大へとつながる提案型ビジネスを着実に形にしていきたいと考えています。

Q 全農との業務提携における取り組みについてお聞かせください。

A 生産から販売まで一貫した取り組みを通じて、相互メリットの実現を目指します。

全農とは、昨年10月に締結した業務提携に加え、自己株式30万株の割り当てによる資本提携も4月に締結しました。資本を受け入れた以上、関係を一層強化し、必ず良い結果になるよう努力していきます。

現在、仕入・販売・製造・物流・商品開発等、分野別に協力体制を構築するための分科会を開催していますが、まずは相互の現状と活用できる設備や資産を把握した上で、実需者と生産者の双方にとってメリットのある仕入れ体制をつくっていきます。こうした取り組みを通じて、従前より進めている「生産者に近づく体制づくり」をより進化させていけると考えています。

Q コメビジネスのグローバル展開の進捗はいかがでしょうか。

A 国産米の市場開拓につながる、さまざまなユーザーニーズに対応するラインアップ充実を図っています。

国産米の輸出拡大と市場開拓に向け農林水産省が進める「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」に参画し、シンガポール、マレーシア、中国の一部への輸出を段階的に増やしています。また、各都道府県や市町村、全農やホクレン、JAと協力し、海外でのPRイベントの開催等を通じて、日本産米の認知度向上、市場創造・販路開拓を進めています。

ベトナム南部では生販体制の拡充として、設備の増強を図りました。中でも粳の乾燥設備と選別機を増設し、取扱米全てを生粳で仕入れ、自社で乾燥・粳摺・精米・選別を高い品質で行える体制を強化しました。これにより、自社契約裁

培のみならず、外部集荷米でも確かな品質を担保できるため、より機動的な調達を行い取扱数量を増やしていきます。また、生販体制の確立を目指すベトナム北部においても、南部よりも高品質なジャポニカ米の栽培と合わせ、外部集荷を拡大しながら、取扱量を拡大していきます。

Q 下半期の重点施策と通期の業績見通しをお聞かせください。

A 来期以降、少しでも大きな成果を出せるよう、土台作りの取り組みを着実に進めていきます。

平成30年産米は西日本での水害による被害が懸念されるものの、全国的には豊作が見込まれており、3年連続で高騰していた米価格も落ち着くと見られています。こうした価格の変動リスクが見込まれる時期は、仕入れ方法が利益に大きく影響してくることから、過剰な在庫を持つことなく、より需要に見合った調達を心がけることが必要です。仕入れ価格が下がった場合はお客様にも価格の変動をできるだけ早く反映し、コメの消費増に繋げていくことが、米卸として誠実な商売のやり方であり、重要な役割

であると考えています。

当社は、大手卸の使命として、業務用ニーズで発生している需給のミスマッチを解消し、必要とされる場所に安定供給できる体制の構築を目指し、多収穫米の取扱量拡大に向けた取り組みも進めています。作付けに必要な種子の確保や実証実験、生産者のメリット訴求による普及拡大活動などを前進させ、来年度以降の大量栽培を目指します。

また、台湾のたんぱく質調整米の製造工場をたんぱく質調整米のみならず、その他コメ加工品も生産できる工場としての活用を検討しており、この下半期中にその方針を固めていきたいと考えています。

業績の見通しについては、上半期終了時点で利益も計画通りの数値を積み上げることができており、通期での計画達成は圏内に捉えていると認識しています。気を緩めることなく着実に取り組みを継続し、来期以降、少しでも大きな成果を出せるよう、2018年12月期をその土台を作る期としていきます。株主の皆さまにおかれましては、引き続き、何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

Close Up

J A ぎふ、(株)吉番屋と業務用の多収性品種米の生産プロジェクトを開始

現在の国内の米穀市場では、値頃感のある価格帯の主食用米の生産が減り、中食・外食を中心にニーズの高い業務用米が逼迫する需給のミスマッチが発生しています。当社は、成長戦略として「生産者に近づく体制づくりの進化」を掲げ、この問題の解消に取り組んでおります。その一環としてJ A ぎふ、(株)吉番屋と新品種「北陸263号」の生産を開始しました。

北陸 263号のおもな特長

- 高温・害虫に対する耐性に優れる
- コシヒカリより約15%多い収量

J A ぎふが地域の生産者と協力して適切な生産方法を確認し、(株)吉番屋および当社が食味・炊飯適性を確認し、業務用米としての活用を検討してまいります。

コメ需要拡大に向け、JA全農との協力体制を強化

当社は、成長戦略として国内における「生産者に近づく体制づくり」と海外における「日本米市場の創造と開拓」を掲げており、その一貫として、全国農業協同組合連合会（JA全農）との間で業務提携を行いました。今後は、互いの経営資源を有効活用して実需者への精米販売に連携して取り組むとともに、消費者ニーズに応える作付推進を協力して行います。また、生産者と消費者を結び懸け橋の役割を一層強化し、日本の農業の持続的な発展の実現に貢献してまいります。

これまでの経緯

2017年10月

JA全農との業務提携契約を締結

2018年4月

JA全農を処分先とする第三者割当による自己株式300,000株の処分を実施

協業の目的

- 水田営農の持続的発展と国産米の需要拡大及び輸出強化
- ごはん食を通じた食生活の維持・向上

業務提携による相互メリット

- **生産から販売までの一貫した取り組みを確立**
仕入・販売・製造・物流・商品開発の各段階で協力体制を進化
- **産地・生産者・実需者ニーズにも応える仕入れ体制作り**
実需者との特定契約や事前契約の拡大に共同で取り組み
主食用をはじめとした様々な分野における米の供給力を発揮
- **安定供給とコストダウンの実現**
互いの経営資源を積極的に有効活用し、Win-Winの体制を構築

木徳神糧

- 消費ニーズに沿った作付けで、商品の差別化を実現
- JA全農が集荷したコメの優先的な仕入れにより、安定的なコメの調達が可能に

JA全農

- コメの直接買い取り・販売比率アップを目指すなかで、安定・効率的な販路の構築を促進

今後の具体的な協業内容について

5つの分野で取り組みを検討中

原材料米

販売計画に対応した安定的な原料調達

広域実需者対応

広域展開する実需者に対して共同でスキーム提案

製造・配送効率化

工場の共同利用や共同配送による効率化・コスト削減

商品開発

米を主原料・副原料にした新商品の共同開発や拡販

輸出対応

拠点や輸送の共同利用、共通ブランドの開発

株主様インフォメーション

単元株式数の変更および株式併合について

当社は、2018年7月1日付で当社株式の単元株式数を変更するとともに、投資単位を適切な水準に調整することを目的として、株式併合を実施いたしました。

単元株式数の変更

【2018年6月30日まで】 **1単元 = 1,000株**
 【2018年7月1日以降】 **1単元 = 100株**

株式併合

5株 → **1株**

- ご所有株式数は株式併合前の**5分の1**
 - 1株当たりの資産価値は**5倍**
- 株式市況の変動などを別として、株主様の所有する
当社株式の資産価値には変化ありません

所有株式・議決権について

例1

【2018年6月30日まで】
 ご所有株式数：2,700株
 議決権数：2個

【2018年7月1日以降】
 ご所有株式数：540株
 議決権数：5個
 単元未満株式：40株

例2

【2018年6月30日まで】
 ご所有株式数：500株
 議決権数：なし

【2018年7月1日以降】
 ご所有株式数：100株
 議決権数：1個
 単元未満株式：なし

株主優待

単元株式数の変更及び株式併合に伴い、株主優待制度の一部変更を行いました。**変更前1,000株以上(変更後200株以上)を保有する株主様について実質的な変更はありません。**

6月末現在の株主様

変更前 1,000株以上2,000株未満
 変更後 **200株以上400株未満** → 2,000円相当の米穀製品

変更前 2,000株以上
 変更後 **400株以上** → 4,000円相当の米穀製品

12月末現在の株主様

新設 **100株以上200株未満** → 2,000円相当の米穀製品

変更前 1,000株以上
 変更後 **200株以上** → 3,000円相当の米穀製品

ポイント1 12月末現在の株主の皆様

▶ **3月頃発送**

年**2**回の贈呈
 ▶ **9月頃発送**

ポイント2

当社
 米穀製品を
 お届けします。



※ 優待内容や商品デザインは、変更する場合があります。

配当金

当社は、株主様に対する利益還元を重視する一方、安定的な経営基盤確保のため、内部留保のより一層の充実を目指し、安定的な配当の継続を業績に依拠して維持することを基本方針としております。

■ 2018年12月期の配当について

2018年7月1日付で普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施したため、2018年12月期(予想)の1株当たり期末配当金は25円となります。

	1株当たり配当金	
	中間	期末
2018年12月期配当予想	5円 (株式併合前の予想)	25円 (株式併合後の予想)

5株 → **1株**に併合

単元未満株式の買取・買増制度

株式併合前と同様に、単元未満株式を所有する株主様は、「単元未満株式の買増」または「単元未満株式の買取」の手続きをご利用いただけます。

買取制度

市場で売却できない単元未満の株式を、当社に買い取るよう請求することができる制度です。

買増制度

市場で購入できない単元未満の株式を、当社に買い増しを請求し、単元株にすることができる制度です。

例

70株を
ご所有の
場合

買取制度を利用

買取請求で70株を当社に売却→売却金額(70×市場価値)を受領

買増制度を利用

買増請求で30株を当社から購入→単元株式100株(70+30株)を所有

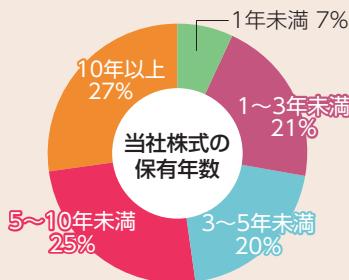
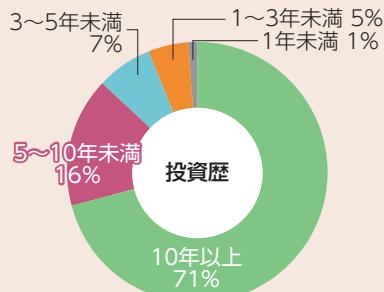
詳しいお手続きについてはお取引されている証券会社か、証券会社に口座を作られていない場合には、右記の株主名簿管理人(特別口座の口座管理機関)にお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

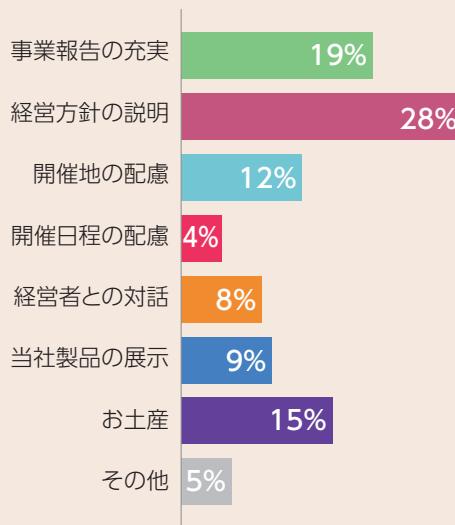
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

電話 0120-232-711 (通話料無料) 受付時間9:00~17:00(土・日・祝日を除く)

第70期株主通信 アンケート結果 <実施期間：2018年4月1日から5月30日まで ご回答数：261通(返送率14.9%)>



当社の株主総会について期待することをお聞かせください。(複数回答)



当社に対するご意見、ご要望をお聞かせください。

- 企業価値、理念を実現にする事業の取り組みをどんどん紹介してほしい。
(京都・男性・無職)
- 生き残るための変化は期待しますが、畑違いのことに手を出さないでほしいと切に願います。木徳神糧がもっともっと成長して行けるよう応援しています。
(東京・女性・その他)

株主の皆様へ

ご意見・ご要望は全てありがたく拝読しております。今後の経営やIR活動に反映させていきたいと考えておりますので、引き続きご支援の程よろしく願い致します。

● 会社概要

商 号 木徳神糧株式会社

事業内容 米穀事業、飼料事業、海外事業、コメ加工食品事業

本店所在地 〒104-0061 東京都中央区銀座7-2-22

本社所在地 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-8
木徳神糧小川町ビル
TEL : 03-3233-5121(代表)
FAX : 03-3233-5131

資本金 5億2,950万円

従業員数 277名(臨時雇用者を除く)

ホームページ <http://www.kitoku-shinryo.co.jp/>

● 株式情報

- (1) 発行可能株式総数 30,000,000株
(2) 発行済株式の総数 8,530,000株
(3) 株主総数 1,734名
(4) 大株主

株主名	所有株式数	持株比率
木村 良	360千株	4.35%
木村 謙三	335	4.05
濱田精麦株式会社	302	3.65
全国農業協同組合連合会	300	3.63
株式会社三菱UFJ銀行	300	3.63
大和産業株式会社	300	3.63
株式会社神明	247	2.98
水野正夫	228	2.75
株式会社三井住友銀行	186	2.25
農林中央金庫	186	2.25

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(266,772株)を控除して計算し、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

● 役員

取締役

取締役会長 木村 良
代表取締役社長 平山 惇
取締役専務執行役員 三澤 正博
取締役常務執行役員 鎌田 慶彦
取締役常務執行役員 稲垣 英樹
取締役常務執行役員 石田 俊幸
取締役執行役員 竹内 伸夫
取締役執行役員 岩苔 永人
取締役(社外) 秋岡 栄子

執行役員

執行役員 大橋 正博
執行役員 家辺 義之
執行役員 石森 好宏
執行役員 管 益成
執行役員 山田 智基
執行役員 金子 泰彦

監査役

監査役(常勤) 伊豫田直記
監査役(社外) 杉野 翔子
監査役(社外) 福田 真也

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで
定時株主総会 毎年3月に開催いたします。
基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払を行うときは6月30日
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所 株式会社東京証券取引所
公告方法 電子公告(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)

精米したてのおいしさをより長くお楽しみいただける長鮮度パックをご紹介します！



炊飯量の少ないご高齢の方やひとり暮らしの方、また多彩なブランド米を色々楽しみたいという方におすめの、長期間鮮度を維持できる食べきりサイズの「長鮮度パック」シリーズを販売しています。

長鮮度パックとは？

袋の口のチャックと賞味期限の印字が目印！

- 窒素充填・脱酸素剤・密封で鮮度を維持し、精米したてのおいしさと風味が長持ち
- 開け閉めしやすいチャック式の袋で、立たせて保存できるスタンドタイプ
- 通常のおコメに比べて賞味期限が長く、食品ロスの削減に

無洗米でも
ご用意！



長鮮度パックシリーズで作れるレシピをご紹介します！



おいしい
おコメを使ったレシピ

調理時間 20分
カロリー 388kcal
(1人分)

簡単料理メニュー さっぱりクイッククッパ

材料
(2人分)

- | | |
|--------------------|----------------|
| ご飯……………300g(茶わん2杯) | 鶏ガラスープの素……大さじ1 |
| レタス……………3枚 | 塩……………小さじ1/4 |
| にんじん……………50g | 白すりごま……………大さじ1 |
| 万能ねぎ……………6本 | ごま油……………小さじ1 |
| 豚肉(しゃぶしゃぶ用) ……100g | あらびき黒こしょう……少々 |
| 水……………3カップ | レモン……………1/2個 |

- 鍋に分量の水を入れ、中火にかけて沸かす。その間に、にんじんは短冊切りに、万能ねぎは小口切りに、レモンはくし型切りにしておく。レタスはひと口大にちぎっておく。
- ①の鍋へにんじんを入れ、鶏ガラスープの素と塩で味を調える。ここにご飯を入れてほぐし、豚肉を1枚ずつ入れる。
- 豚肉の色が変わったらレタスを加え、さっと煮て器に盛る。万能ねぎ、白すりごまをかけ、ごま油をまわしかけ、あらびき黒こしょうをふる。レモンを添え、いただくときに絞る。



トップページ



IR情報

スマートフォンにも対応！



おすすめ情報

より多くの方々に当社を理解していただけるよう、おすすめ情報やIR情報などの充実を図っておりますので、是非一度ご覧ください。

日本の特産品

(表紙から)



日本有数の米どころである山形県。当社もブランド化戦略会議に参画したつや姫をはじめとする山形県の美味しい特産品と名所をご紹介します！

1 最上川

最上川は、昔から農業用水や交通路として利用され、生活に必要な水の大部分を担っています。この「母なる川」と呼ばれる最上川の豊かな水と肥沃な土壌に恵まれ、山形は美味しいおこめの産地として知られています。

3 板そば

大きな板状の木箱に数人前のそばが入ったものが「板そば」です。農作業の合間などでそばを分け合って食べる風習“そば振る舞い”に由来するものと考えられています。

5 芋煮

東北地方で秋の行楽シーズンに野外で汁物を作り、仲間と歓談する「芋煮会」は山形県が始まりだと言われています。里芋、牛肉、こんにゃく、長ねぎを醤油で味付けして大鍋で煮た秋を象徴する名物です。

2 山形つや姫

つや姫は約10年をかけて開発された山形のブランド米です。甘みや旨みが強く、粘りと柔らかさのバランスが良く、その美味しさはコシヒカリを凌ぐとも言われています。

4 さくらんぼ

山形のさくらんぼ生産は、7割を佐藤錦が占めています。約18%と高い糖度とほどよい酸味を持ち、香りも良いので贈り物にもぴったりです。